「地理Ａ」におけるESD実践報告
～新科目「Global Studies」を見据えて～

地理歴史科　今　野　良　祐

学校設定教科「国際科」の新科目である「Global Studies」の授業内容を試験的に先取りして、国際教育としての地理教育を実践する。ESDの諸側面の中でも開発教育やグローバル教育の側面を反映して、地球的課題やグローバルイシューに関することに焦点をあてた内容を取り上げるとともに、学習方法においても開発教育で多用されている参加型学習を多く取り入れた。

キーワード：地理A　ESD（持続発展教育）　Global Studies　開発教育　参加型学習

1．はじめに

本校は、2008年に打ち出された筑波大学附属学校の３つの教育拠点構想を受けて、特に国際教育に力を入れて取り組んでいる。新学習指導要領の告示を受けて、2011年度入学生より1年前倒しで新課程を実施することとし、教育課程の大幅な見直しを行った。そして、新課程では学校設定教科として国際科を設置し、４つの科目を開発することになった。すなわち、2年次（2012年度から）科目群選択科目「国際社会」、2年次一般選択科目「Discussion & Debate」、3年次（2013年度から）一般選択科目「比較文化論」、「Global Studies」の４つである。これらの科目は基本的に誰でも自由に選択できる科目として配置してあり、様々な専門分野を学ぶ生徒が選択してくることを期待している。そして多面的・多角的な視野からの学習活動を提供し、先述の国際教育の推進に教科としても貢献していこうとしている。(1) また、2011年3月には、「総合学科の特色を生かした多角的アプローチによるESDの推進」をテーマとしてユネスコスクールに加盟した。加盟を機に、これまで各教科で取り組んできたESD的な実践を見直して、全校を挙げたESD実践に取り組み始めたところである。

ところで、2009年３月告示の高等学校学習指導要領（以下、指導要領）では、新たに「持続可能な社会の構築」が盛り込まれた。2002年のヨハネスブルクサミットにおいてわが国の提唱によってスタートしたESD(2)の視点が、文言は異なるが2008年の「教育振興基本計画」に次いでようやく指導要領に明文化され、学校現場での実践が求められるようになったのである。

元来、自然と人間、環境と開発、先進国と途上国などの関係性を学習の中心主題に置く地理がESDの推進に大きな役割を持っていることは間違いない。中山（2011）は、2006年に出された『我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画』（以下、ESD国内実施計画）では、ESDの学習テーマを先進国と途上国に分けて提示していることに大きな特徴があるという。それは、先進国と途上国が各々の課題の解決に終始すればよいということではなく、双方が密接な関係性があってそれぞれが持続的発展を達成しなければ意味がないことを示している。世界地誌として先進国と途上国の双方を扱う地理教育への期待が大きいと指摘している。

しかし、昨今の地理教育をめぐる情勢も厳しいものがあり、履修者の減少や地理専門教員の減少、大学入試科目からの消滅など、克服しなければならないハードルはいくつも存在する。また、社会科系科目全般に共通する課題として、いわゆる「暗記科目」からの脱却が求められており、指導要領においては「思考力」や「見方・考え方」、「社会参画への意欲・態度」の育成を重視する姿勢が指導要領改訂ごとに強まっている。持続可能な社会を構築していくためには、課題や問題を知識として理解していることは大前提であり、これがゴールではない。知識を生かしてどのような社会を創造していくべきか、どのように構築していくべきかを考えたり、可能であればそれに向けて行動化することが必要であろう。このように地理教育における時代の趨勢に合わせた教材内容の変化はもちろんのこと、目標や指導方法、評価方法についても変革が求められているのである。

以上のような地理教育の状況をふまえて、本稿では筆者が2011年度に3年次自由選択科目「地理A」において取り組んだESD実践について報告をするものである。ま

た、学校設定教科「国際科」の新科目である「Global Studies」の授業内容を試験的に先取りして、国際教育や開発教育の要素を強めた地理の授業として構想している。

2．「地理Ａ」の授業設計

「地理Ａ」の授業は、３年次生の自由選択科目である。自由選択科目であるので、生徒は興味や関心・進路などに応じて選択してくる科目なので、様々な専門分野を学んでいる生徒が集まってくる。

授業は２時間で１テーマが完結するように展開させる。そして、授業内容に関する小レポートを毎時間執筆させて次時までに提出させる。レポートの内容は、授業者がとりまとめて次時の授業の冒頭においてクラス全体で共有し、新しい学習テーマへの橋渡しとしている。

科目名	地理Ａ　（３年次自由洗濯科目）
授業日	月曜１・２限（50分×２時間連続）
受講者数	２８名
仕様材料	「よくわかる地理Ａ」二宮書店
	「地歴高等地図」帝国書院
	「私と世界」メディア総合研究所
	オリジナルプリント

授業の内容（主題）は新科目「Global Studies」で実施する内容を見据えて、地理教育で取り扱う内容にESDの諸側面としての開発教育やグローバル教育の側面を大きく反映させた内容とした。テーマとしては、いわゆる地球的課題やグローバルイシューに関することに焦点をあてて、学習方法においても開発教育で多用されている参加型学習を多く取り入れた。第1表の年間指導計画に示したように、地理Ａの授業であることに留意し、基本的には教科書の内容に沿って進めることとし、必要に応じて地球的課題の内容を掘り下げた内容を取り扱うようにした。

2005年にユネスコが出した「国連ESDの10年ユネスコ国際実施計画」では、ESDのテーマを3領域15分野に分類している。(3) 持続可能な社会を構築するために社会・文化、環境、経済の三者のバランスのとれた発展が求められており、これらの3領域に関しての喫緊の課題が列挙されている。また、2006年の「国内実施計画」では、ESDで育みたい力を、５つの技能と４つの価値観に集約している。(4) 今年度の「地理Ａ」の授業内容と先述の「国際実施計画」および「国内実施計画」で掲げられたテーマ・技能・価値観との関連を第２表に示した。

指導方法に関して「国内実施計画」では、「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すという一連の中に位置づ

第１表　地理Ａ　年間指導計画

	月日	主題	教科書の単元	使用教材・手法
一学期	4/18（月）	地理Aガイダンス	技能を学ぶ：略地図を描く	メンタルマップ、世界地図（ミラー図法）
	4/25（月）	１枚の世界地図から考える	世界地図と地球儀	ミニ地球儀の作成、ピーターズマップ
	5/9（月）	貿易ゲームから考える世界の南北格差	世界の貿易	貿易ゲーム、はさみ、紙、クリップ、コンパス
	5/16（月）	＜実習生授業＞　国際分業と途上国の労働事情	世界の貿易	グループ討論
	5/23（月）	＜実習生授業＞　国家間の結合	国家間の結合	ロールプレイ
	5/30（月）	「100人村」から考える世界の現実	地球的課題と私たち、人口問題	「ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ版　世界がもし100人の村だったら」
	6/6（月）	開発とは　～誰が誰のために？～	地球的課題と私たち、居住・都市問題	ピクチャーランゲージ
	6/13（月）	開発とは　～よりよい社会づくりのために～	地球的課題と私たち	ﾌﾞﾚｲﾝｽﾄｰﾐﾝｸﾞ、ｳｪﾋﾞﾝｸﾞ、ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ・ﾗﾝｷﾝｸﾞ
	6/20（月）	開発とは　～持続可能な開発へ向けて～	地球的課題と私たち	ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ・ﾗﾝｷﾝｸﾞ、ディスカッション
	7/4（月）	MDGs（ﾐﾚﾆｱﾑ開発目標）達成状況の地域差を読む	主題図作成	主題図作成、白地図、統計データ、色鉛筆
	7/6（水）	一学期期末考査	－	－
二学期	9/5（月）	＜実習生授業＞（台風臨時休校）	－	－
	9/12（月）	＜実習生授業＞　観光化とその影響	多様さを増す人々の行動	グループ討論、旅行パンフ
	9/26（月）	人々を取り巻く環境：地形	地球表面、世界の山脈・大平原・大高原	グループ討論、地形写真、トレーシングペーパー
	10/3（月）	人々を取り巻く環境：地形	地形図から見る日本の地形：扇状地	講義、扇状地における水と土地利用ワークシート
	10/17（月）	人々を取り巻く環境：気候	気候の地域性、世界の気候区分	講義、気圧帯提示パネル
	10/24（月）	エネルギー問題を考える：各発電方法の特徴	資源・エネルギー問題	「図表でわかるエネルギーの基礎」「原子力コンセンサス」
	10/31（月）	エネルギー問題を考える：発電方法ランキング	資源・エネルギー問題	講義、発電ランキング
	11/7（月）	よりよい発電方法を考える：3Dディベート	資源・エネルギー問題	3Dディベート
	11/14（月）	よりよい発電方法を考える：補足（水力・原子力）	資源・エネルギー問題	DVD「原発、ほんまかいな？」
	11/28（月）	二学期期末考査	－	－
三学期	12/5（月）	ヒジャブから考えるヨーロッパ統合	世界の諸地域の生活・文化：ヨーロッパ	DVD「ヒジャブ」、「となりに生きる外国人」
	12/12（月）	ひょうたん島問題から考える多文化共生	人々をとりまく文化：多文化社会の形成	「ひょうたん島問題」、ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ、ﾗﾝｷﾝｸﾞ
	12/19（月）	ペットボトルの水から考えるコモンズ	地球的課題と私たち	DVD「ペットボトルの水」
	1/16（月）	さぬきうどんから考える地域と世界	地球的課題と私たち　食糧問題・食文化	DVD「さぬきうどんに迫る危機」
	1/23（月）	「私」と「世界」とのつながりを考える	地球的課題と私たち　私と世界	DVD「トレランス」「命の度合い」
	1/30（月）	三年次生学年末考査	－	－

第2表　地理A　授業内容とESDテーマ・技能・価値観との関係

		国連DESDユネスコ国際実施計画(2005)															ESD国内実施計画(2006)								
		社会・文化領域							環境領域					経済領域			ESD技能					ESD価値観			
番号	ESD技能・価値観・領域 / 主題	人権	平和と安全	男女間の平等	文化の多様性	健康	HIV／エイズ	ガバナンス	自然資源	気候変動	農村開発	持続可能な都市化	防災	貧困削減	CSR	市場経済	体系思考	批判思考	情報分析能力	コミュニケーション	人間の尊重	多様性の尊重	非排他性	機会均等	環境の尊重
1	地理Aガイダンス				○				○								○		○			○	○		○
2	1枚の世界地図から考える		○											○				○	○						
3	貿易ゲームから考える世界の南北格差							○	○					○		○		○	○	○			○	○	○
4	＜実習生授業＞　国際分業と途上国の労働事情					○									○	○	○		○	○					
5	＜実習生授業＞　国家間の結合		○					○	○					○		○	○		○	○		○	○		
6	「100人村」から考える世界の現実	○		○	○			○	○		○	○				○	○	○		○	○	○	○	○	
7	開発とは　～誰が誰のために？～	○				○					○		○			○		○	○	○		○		○	○
8	開発とは　～よりよい社会づくりのために～																		○			○		○	○
9	開発とは ～持続可能な社会に向けてディスカッション～																○		○	○		○		○	
10	MDGs（ミレニアム開発目標）達成状況の地域差を読む	○		○	○	○	○	○									○	○	○		○	○	○	○	○
12	実習生授業（台風臨時休校）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
13	実習生授業　氣光化とその影響				○	○			○				○			○		○		○		○		○	○
14	人々を取り巻く環境：地形								○								○			○		○			○
15	人々を取り巻く環境：地形								○				○				○					○			○
16	人々を取り巻く環境：気候								○				○				○					○			○
17	エネルギー問題を考える：各発電方法の特徴							○	○						○	○	○		○			○			○
18	エネルギー問題を考える：発電方法ランキング																	○	○	○		○			○
19	よりよい発電方法を考える：3Dディベート							○	○		○	○	○			○		○		○		○			○
20	よりよい発電方法を考える：補足（水力・原子力）					○		○	○				○			○		○				○			○
22	ヒジャブから考えるヨーロッパ統合	○	○					○									○				○	○	○	○	
23	ひょうたん島問題から考える多文化共生	○	○		○			○	○		○							○		○	○	○	○	○	
24	ペットボトルの水から考えるコモンズ					○		○	○						○	○		○				○	○		○
25	さぬきうどんから考える地域と世界	○	○					○	○		○				○	○	○	○				○			○
26	「私」と「世界」とのつながりを考える	○	○					○									○	○			○	○	○		

けること、さらに、①これらの過程では、単に知識の伝達にとどまらず体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチとすること、②活動の場で学習者の自発的な行動を上手に引き出す「ファシリテート」の働きを重視すること、③これらのアプローチを通じて、学習者の参加する態度や問題解決能力を育み、参加する機会の提供にも努めること、の必要性を指摘している。したがって、講義形式の内容を極力減らして参加型学習による授業展開を主として、生徒の主体的・能動的な学習が行われるように配慮した。

また、各学期の評価は、毎時間提出される小レポートの内容、期末考査の到達度、出欠席・授業態度の３点から行う。

３．授業の実際

第３表に、各時間の授業内容の概要を示した。既成の教材や自作の教材などを織り交ぜて、身近なところに潜んでいる世界とのつながりや問題点にも気付いてもらうために具体的な物や映像に触れる機会を多く設定した。

【使用教材】

・「貿易ゲーム」、2002年開発教育協会

・「ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら」、2003年開発教育協会

・「貧困と開発～豊かさへのエンパワメント」、2005年開発教育協会

・鈴木敏明構成「となりに生きる外国人－多文化共生って何？－」、2006年アジア太平洋資料センター（PARC）

・鈴木敏明構成「ペットボトルの水」、2006年アジア太平洋資料センター（PARC）

・「図表で語る　エネルギーの基礎　2010-2011」、2010年電気事業連合会

・「原子力コンセンサス2011」、2010年電気事業連合会

・細川弘明監修「原発、ほんまかいな？」、2011年アジア太平洋資料センター（PARC）

・綾部真雄編「私と世界　６つのテーマと１２の視点」（ＤＶＤ付き）、2011年メディア総合研究所

・藤原孝章著『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」～多文化共生社会ニッポンの学習課題』、2008年明石書店

第３表　地理Ａ　授業概要

	主　題	内　容
1	地理Aガイダンス	【ねらい】 1年間「地理A」を学んでいくうえでの基礎的素養（世界地図の基礎）を理解する。 【展開】 1．地理地理バスケット 教室前面に椅子を円形に並べ、フルーツバスケットの要領でアイスブレイクを行う。 ルールは「地理に関する事柄」のお題を出し、該当する生徒が移動する。全員移動させるには「地理地理バスケット」と叫ぶ。 次第に、椅子の数を減らしていき、あふれた生徒から出席を取っていく。 2．科目概要の説明 改めて担当者の自己紹介をする。地理Aという科目の概要を説明する。 3．地理A専用ファイルづくり 地理Aで使用する授業ファイルを作成する。タイトル・ネームタグなどをファイルに貼っていく。 4．メンタルマップを書く！ 何も見ないで世界地図を書いてみよう。六大陸と三大洋の名称をすべて挙げる。アマゾン川・ヴィクトリア湖・スラウェシ島の場所を記入する。 なぜ地理Aを選択したかを述べる。自己PR含む。 5．世界地図の基礎 世界地図の一筆書きを紹介する。 六大陸と三大洋の名称と位置を確認する。アマゾン川・ヴィクトリア湖・スラウェシ島の場所を確認する。 また、これらが赤道直下にあることを確認する。緯線・経線・赤道・本初子午線・日付変更線を確認する。 6．アジアの純真 イントロクイズ：アジアの純真（パフィ、1996年）歌詞の中でアジアに関するものを挙げる。歌詞を確認しながら、世界の地域名・州名を確認する。
2	１枚の世界地図から考える	【ねらい】 世界を正しく表現する方法としての地球儀、世界地図の表現方法の特徴と問題点を体験的に理解する 【展開】 1．世界地図と地球儀 ①順の中の世界地図（メンタルマップ）をもとに、以下の各項目に答える。 ・面積の大きい順：ﾌﾞﾗｼﾞﾙ、ｵｰｽﾄﾗﾘｱ、ｲﾝﾄﾞ、ｸﾞﾘｰﾝﾗﾝﾄﾞ、ｱﾗｽｶ ・東京から近い順：ﾚｲｷｬﾋﾞｸ、ﾛﾝﾄﾞﾝ、NY、ｹｰﾌﾟﾀｳﾝ、ﾘｵﾃﾞｼﾞｬﾈｲﾛ ・東京からみた方位：ﾛﾝﾄﾞﾝ→北西、NY→北東、ｼﾄﾞﾆｰ→南東 ②上記項目を世界地図（メルカトル図法）で確認する 予想が大きくずれていることに気付く。しかし、世界地図に描かれている情報は間違っていることを伝える。 ③Activity「ミニ地球儀の作成」 １人１個、ミニ地球儀を作成し、正しい面積順、近距離順、東京からの方位を確認する。「なぜ、世界地図と地球儀ではこんなにも違うのか？」 2．球面を平面に　～様々な地図投影法～ 「世界地図では、面積、距離、方位、角度、形をすべて同時に正しく表現することはできない。」 ・メルカトル図法（正角図法）：角度が正しい ・正距方位図法：中心からの距離と方位が正しい ・正積図法：陸地の面積が正しい　ex)ホモロサイン図法 3．世界地図を正しく表現する試み?? Arno Peters氏が考案したピーターズ図法（ピーターズマップ）を紹介する。この地図は世界の大陸の面積比が正しく表現されている正積図法の一つである。 しかし、大陸の形が極端にやせ細って歪んでおり、奇妙な印象を観者に与えている。 4．小レポート執筆 ・メルカトル図法の問題点 ・なぜメルカトル図法は世の中に広く浸透したか ・ピーターズマップに込められた想いとは
3	貿易ゲームから考える 世界の南北格差	【ねらい】 ・貿易を中心とした世界経済の基本的な仕組みについて体験的に理解すること。 ・南北格差（南北問題）や環境問題の仕組みについて体験的に理解すること。 【展開】 1．前回のふりかえり ・ピーターズマップに込められた想いとは 「地図が暗黙のうちに示している南北格差を助長しないように、陸地の面積比を正確に示すとともに、 やや奇形な大陸の形にして、観者の注目を集めようとした。」 2．Activity「貿易ゲーム」 「最もお金を稼いだチームの勝ちです。頑張ってください」 A班・B班（先進国モデル）：鉛筆4本、ハサミ2つ、定規2つ、分度器1つ、コンパス1つ、紙1枚、2000ドル C班（中進国モデル）：鉛筆3本、ハサミ1つ、定規1つ、紙1枚、500ドル D班・E班（発展途上国モデル）：鉛筆2本、紙20枚、200ドル（技術はないが資源が豊富にある国） F班（後発発展途上国モデル）：鉛筆1本、紙1枚、100ドル（資源も技術もない国） ◆ゲーム展開に変化をもたらすイベント　①製品価格の下落、②製品のチェックの厳しさに差をつける、③F班への紙の追加、④1分だけカッターを貸し出す 3．貿易ゲームふりかえり（シェアリング） 「なぜこのような結果になったのか」、「もっとこうすればよかった」、「気づいたこと、感じたこと、学んだことなど」 ◆想定されるゲームの展開と世界の貿易の実際　①移住労働者（出稼ぎ）、②国際分業、③植民地化、④援助（国際協力） 4．世界の貿易構造 ・垂直貿易と水平貿易、貿易構造の変化→地域経済圏、自由貿易協定 5．小レポート執筆 ・南北問題、南南問題をもたらしている貿易の構造上の特徴およびその構造の問題点 ・南北格差を解決するためにはどうしたらよいか
4	＜実習生授業＞ 国際分業と途上国の労働事情	【ねらい】 ・前時の貿易ゲームの学習をふまえて、途上国の労働事情とそれをもたらしている日本の貿易の特徴について理解する 【展開】 1．貿易ゲームふりかえり 2．事例研究：バングラディシュの労働事情 3．日本の貿易の特徴　産業の空洞化、途上国への工場移転と国内の産業の空洞化 4．小レポート執筆 ・もしあなたがバングラデシュの法制工場員だとしたら先進国に何を望むかあなたの考えを述べよ。 ・先進国と途上国の貿易をお互いに発展させるためにはどのようにしたらよいかあなたの考えを述べよ。
5	＜実習生授業＞ 国家間の結合	【ねらい】 ・戦後世界の展開の中で誕生した国家間結合組織について、その特徴と設立背景について理解し、結合する意味について考える 【展開】 1．レポート返却 2．戦後世界の展開と国家間結合・地域統合 3．国家間結合組織ロールプレイ

6	「世界がもし100人の村だったら」から考える世界の現実	【ねらい】 「世界がもし100人の村だったら」をもとに、世界の現状を体験的に理解する 【展開】 1. これまでの学習のふりかえり 「我々（先進国）は平穏な日々を過ごしているけれど、世界にはそうでない人たち（途上国）がたくさんいる」 「そうした状況はつくられるべくして、つくられている」、「私たちはどうしたらよいか？」→問題の構造を知り、行動する 2. Activity「世界がもし30人の村だったら」 ・役割カードをもとに、以下の項目で分かれ、世界の基礎的情報を体験的に理解する。 ①「現在の世界人口は何人か？」 ・現在の世界の人口→69億人（2010年）→30人に変換 ・1950年は25億人→現在69億人→2050年には推計93億人 ②地域（大陸）ごとに分かれてみよう」 ・アジアに全人口の60%が居住 「多くの人口を支えているものは何か？」 ・単位面積当たりの収量が多く、栄養価の高いコメ ・また輪作を可能にする堆積平野と大河川の存在 ・そこに高温多雨をもたらすモンスーンの影響 ③世界の言葉で「こんにちは」 民族言語、世界的言語、少数言語 ④男性、女性、どっちが多い？ 「なぜ先進国では女性が多く、途上国では男性が多い？」 ・生物学的には女性のほうが長生き？ ・ジェンダー、アジアの家父長制、男尊女卑文化 ⑤世界は今、高齢化？若年化？ ・30%がこども、70%が大人（そのうち10%程度が老人）「なぜ途上国では子どもが多く、先進国では少子高齢化？」 ⑥世界の富は誰が持っている？ ・富裕層6%に59%の富、中間層74%に2%の富、貧困層20%に39%の富 3. 補足＆解説「世界がもし100人の村だったら」 世界人口、性別、年齢、性愛、人種、地域、宗教、言語、食糧、富、ｴﾈﾙｷﾞｰ、住居・水、貯蓄、教育、思想信条、争い、生死 4. 小レポート執筆 ・本文中で最も印象・問題に残ったところはどこか？その理由は何か？ ・読後にどんな気持ちになったか？その理由は何か？
7	開発とは ～誰が誰のために？～	【ねらい】 ・「世界がもし100人の村だったら」をふまえて、世界の人口問題を構造的に理解する。 ・「開発」とはどのようなものか、誰が誰のために行っているのかを体験的に理解する。 【展開】 1.「世界がもし100人の村だったら」読後レポートのふりかえり 2. 人口問題（補論） ・人口爆発（1950年代以降の急速な人口増加、現在鈍化傾向） ・人口増加の種類（自然増加と社会増加） ・人口動態と人口ピラミッド（多産多死→多産少死→少産少死） 3. Activity「開発とは～誰が誰のために～」 ・ピクチャーランゲージで開発の諸側面を確認する ・4人組になり、絵1担当と絵2担当のグループを割り振る。 ・絵1（昔）と絵2（現在）の2枚の絵を見比べて、それぞれの特徴を見出す。 ・1人ずつ絵から読み取れる特徴を挙げでもらう。 ・絵1（昔）と絵2（現在）への変化の過程で良くなったことと悪くなったことを挙げ、2枚の絵の変化についてタイトルをつける。 ・絵1（昔）と絵2（現在）への変化の過程で得をした人と損をした人を挙げ、それぞれに当地の住民がいることを確認する。 ・誰が何（誰）のためにこの町を変化（開発）させたのか。また、その結果、町や人々はどうなったのかを自分の言葉でまとめる。
8	開発とは ～よりよい社会づくりのために～	【ねらい】 「開発とは」のPic-Lanをふまえて、開発の定義と開発をめぐる問題を構造的に理解する。 1.「開発とは」ピクチャーランゲージのレポートのふりかえり 2.「開発」の定義 ・経済開発・社会開発と環境開発、人間開発を両立→持続可能な開発 3.「開発の諸側面」ブレインストーミング→グルーピング ・開発の諸側面をブレインストーミングで挙げる ・ブレストで挙げた開発の諸側面をグルーピングし、グループ名を付ける ・模造紙の中央に「開発」を置き、先にグルーピングしたものを、ウェビングで構造化する。 ・各班で作成したものを、発表する。 4.「開発とは～優先される課題～」ダイヤモンド・ランキング ・開発をめぐる諸側面のうち優先されるべき課題は何かを、生徒各自でダイヤモンド・ランキングを作成し、開発の定義の理解を深める。 A. 開発とは、エネルギーや交通などの産業基盤が発達し、技術革新も進んで経済が成長すること。 B. 開発とは、世界の資源が乱用されず、しかも公正に分配されて、将来にわたって環境が保持できること。 C. 開発とは、地域の政治的意思決定に参加でき、権力がより平等に分配されること。 D. 開発とは、ネットワークを築くことができ、互いに助け合って生きることができること。 E. 開発とは、健康で長生きでき、病気になっても容易に治療が受けられ、犯罪もなく安心して生活できること。 F. 開発とは、ゆとりある生活空間で、時間に追われることなく、自分の好きなことにも打ち込めること。 G. 開発とは、能力に応じて教育を受けることができ、自己実現に向けて努力できること。 H. 開発とは、他人に対して思いやりの心を持ち、文化の多様性を尊重し、性別で不利益が無いこと。 I. 開発とは、強力で安定した政府を樹立すること。 5. 小レポート執筆 ・「開発」とはどのような状態をさすのか。授業内容をもとに説明せよ。 ・ダイヤモンド・ランキングを作成するうえで特に重要視した指標は何か。 ・よりよい社会を築いていくために、今後どのような開発が求められるか。進路や関心分野と関わらせて、根拠とともに述べよ。
9	開発とは ～持続可能な開発へ向けて～	【ねらい】 ・「開発とは」のﾗﾝｷﾝｸﾞをふまえて、開発の優先課題をディスカッションを通して考える ・優先課題として国連が定めた「ミレニアム開発目標」についての理解を深める 【展開】 1.「開発とは」ダイヤモンド・ランキングのシェアリング ・円卓会議形式に座って、各人作成のランキングと作成の指標を発表する 2. Activity「開発」の優先課題～ディスカッション～ ・「開発」で最優先されるべきものは何か。 3. ミレニアム開発目標（MDGs） ・2015年までに世界の貧困を半減させることを目指した国際的取組 ・8つの開発目標とその地域ごとの達成状況（表） 4. 小レポート執筆 ・MDGs達成状況の地域的特徴および地域差の様子を簡潔にまとめよ。（まとめ方は文章でも地図や図を用いてもよい）

10	MDGs（ミレニアム開発目標） 達成状況の地域差を読む	【ねらい】 ・世界的な視野で、貧困地域にどのような広がりがみられるのか、またそれはなぜか。 ・重点的に開発が必要な地域はどこなのかを考える材料として主題図（統計地図）を作成する ・作図の基本的知識と技術を学ぶ 【展開】 1. ミレニアム開発目標（MDGs）達成状況の地域差の確認 2. MDGsへの世界各地のアクション （映像①：実現させようミレニアム開発目標、映像②：スタンドアップ・テイク・アクション） ・私たちにもできるアクションはないか考える ・つぶやきキャンペーンの案内（自由参加、1学期成績に加点） ・世界の現状をよく学んでおく必要があることを認識させる 3. 主題図の作成 ・世界の貧困の現状、特にその分布の様子を把握することを目的に、主題図の作成を行う。 ・主題図の種類（等値線図、ドットマップ、階級区分図、図形表現図など） ・統計データのうち相対値は階級区分図、絶対値は図形表現図を用いる ・4人グループで1つの主題を担当し、作図 ・統計データを各自で階級区分し、凡例の色を割り当てる ・凡例は緑色を目立たせたいもの（貧困度が高いもの）とする
12	＜実習生授業＞ （台風襲時休校）	
13	＜実習生授業＞ 観光化とその影響	【ねらい】 ・世界各地を観光という視点で見直し、観光に多様な要素があることを理解する ・観光行動の増加による地域への影響を諸資料から明らかにし、あるべき観光地の姿・旅行者の姿を考える 【展開】 1. 観光化の地理的要因 2. 観光地の特徴 3. 観光化とその影響 4. ホレポート執筆 ・日常生活から離れて観光旅行することは、どんな意味があるか。授業内容を踏まえてあなたの考えを述べよ。 ・ワークで担当した国では観光化によってどのような問題が生じているか。また、その問題はどうすれば買い戻しすることができるか。 ・日本の文化や自然が世界遺産に登録されることによってどんな影響があると考えられるか。
14	人々を取り巻く環境：地形	【ねらい】 ・人間の生活舞台である地形について、その特徴と形成要因について体系的に理解する ・世界の中における日本列島の地体構造について理解し、地震や火山などの災害が頻発しやすい地形であることを理解する 【展開】 1. 前時のおさらい ・観光化とその影響について 2. 地形はどのようにつくられるか？（グループワーク） ・12枚の地形写真を、形成要因を想像していくつかのグループに分類する グランドキャニオン（侵食谷）、モニュメントバレー（メサ・ビュート） エアーズロック、鍾乳山（残丘・モナドノック） アレッチ氷河、U字谷、フィヨルド、マッターホルン（氷食地形） 扇状地、三角州（堆積平野） 火山、ギャオ（内的営力による地殻変動） →分類結果をグループごとに発表する →地球内部からの力（内的営力）と外部からの力（外的営力）で再分類 3. 地形形成の要因 内的営力と外的営力の2つの分類と具体例（地殻変動、褶曲、断層、火山活動、風化、侵食、運搬、堆積）を提示する。 4. 大陸移動説からプレートテクトニクスへ ・ウェゲナーの大陸移動説（1915年） ・プレートテクトニクスの誕生（1960年代） マントル対流、プレート境界（変動帯）の種類 →地図帳後ろ見返し「世界の地震と火山分布」をトレーシングペーパーにトレースする →地図帳後ろ見返し「プレート分布」に重ね合わせる →地震・火山はプレート境界に多く分布することがわかる＝変動帯
15	人々を取り巻く環境：地形	【ねらい】 ・身近に見ることができる地形について、その特徴と形成要因について構造的に理解する ・自然環境と人間生活のつながり、自然の摂理を無視した開発の代償などについて、実際の事例をもとに理解する 【展開】 1. 世界の地体構造とその特徴 ・先カンブリア代に造山運動→安定陸塊、鉄鉱石を産出 ・古生代に造山運動→古期造山帯、石炭を産出 ・中生代から新生代にかけて造山運動→新期造山帯、石油を産出 2. 扇状地 ・扇状地における水の流れ方を軸にして、扇頂・扇央・扇端の各場所における土地利用の特徴をとらえる 3. 天井川 4. 台地と低地 5. ホレポート課題 ・扇状地における水と土地利用の関係を表形式で整理してみよう （土砂の粒径、水の流れ、地下水位、水の利用、集落の様子、農業的土地利用）
16	人々を取り巻く環境：気候	【ねらい】 ・人間の生活環境を規定する気候について、その特徴と形成要因について構造的に理解する ・気候が地域の植生や土壌、農業などの産業立地にも影響していることを理解する 【展開】 1. 気候要素と気候因子 2. 気候のしくみ ・水と岩石の違い（比熱）・・・海洋性と大陸性 ・暖気と冷気の重さの違い・・・上昇気流と下降気流、低気圧と高気圧 ・季節風の原理と海陸風 3. ケッペンの気候区分 気候記号の意味のみ確認。判定は取り扱わない。 ・気候帯：A～E ・降水パターン：f、s、w ・最暖月平均気温：a、b 4. 大気大循環
17	エネルギー問題を考える ：各発電方法の特徴	【ねらい】 ・産業や生活を支えるエネルギーについて、多角的な視点から現状を理解する 【展開】 1、補足：各気候区分の特徴、植生と土壌、海流 2. エネルギー資源利用の拡大 3. 電力 4. ホレポート執筆 各発電方法の特徴を指標ごとにまとめる ・水力発電、火力発電、原子力発電 ・燃料、発電方法、燃料供給の安定性、燃料コスト、発電所の立地条件、都市部への送電コスト、環境負荷、事故の危険性 ・長所と短所（問題点）

18	エネルギー問題を考える ：発電方法ランキング	【ねらい】 ・各発電方法のしくみ、メリット・デメリットを明らかにし、発電ランキングを作成する 【展開】 1. 資料をもとに各発電方法の特徴を指標ごとにまとめる ・「図表で語る エネルギーの基礎 2010-2011」、2010年電気事業連合会 ・「原子力コンセンサス2011」、2010年電気事業連合会 3. 小レポート課題 「火力・水力・原子力、BESTな発電どれ？」 ・火力・水力・原子力の良い発電ランキングを作成 ・「良い」の指標は何か？ ・良い発電ランキングの根拠を説明
19	よりよい発電方法を考える ：3Dディベート	【ねらい】 ・発電ランキングをもとに各立場に分かれてディベートを行う。各発電の良し悪しを確認し、今後のエネルギー政策や生活者としてあり方などを考える 【展開】 1. 「良い発電方法ランキング」レポートのふりかえり ・各々のランキングと指標を確認する 2. 発電方法3Dディベート 各班ごとに作戦タイム(論点整理)→意見1立論→意見2・3反論、意見2立論→意見3・1反論、意見3立論→意見1・2反論 →各班ごとに作戦タイム→意見1反駁・質疑→意見2反駁・質疑→意見3反駁・質疑 →各班ごとに作戦タイム→意見1最終弁論、意見2最終弁論→意見3最終弁論、総合討論
20	よりよい発電方法を考える ：補足（水力・原子力）	【ねらい】 ・支持の多かった水力発電、原子力発電に関する課題を確認し、ディベートの結論の方向性を修正する 【展開】 1. ダムについて 多目的ダムの相反する2つの機能（電源開発、洪水調節、用水開発） →貯水量が少ないほうがよいもの、多いほうがよいもの 2. ダムによる環境破壊 3. DVD「原発、ほんまかいな？」視聴 4. 小レポート課題 「原発、ほんまかいな？」を見て、何が一番問題だと考えたか。これからどのように生きていけばよいのか。
22	ヒジャブから考えるヨーロッパ統合	【ねらい】 ・ヨーロッパ統合を事例として、ヨーロッパという地域についての理解を深める ・映像「ヒジャブ」をみて、統合に伴って生じている課題について考える 【展開】 1. 2学期期末考査返却 2. 映像「ヒジャブ」視聴 ・映像「ヒジャブ」の中で最も印象に残ったところ、または問題であると思ったところはどこか？その理由は何か？ ・映像「ヒジャブ」の監督いわく、この映像のテーマは「寛容」。この映像のどんなところに寛容を感じたか？ 3. ヨーロッパの地域性 ・地形、気候、民族、宗教 4. 統合が進むヨーロッパ ～EUのあゆみ～ ・ECの発足、EUへの発展的改組、ユーロ導入 ・加盟国の拡大 5. 小レポート課題 ・映像「ヒジャブ」の中で最も印象に残ったところ、または問題であると思ったところはどこですか？また、その理由は何ですか？ ・映像「ヒジャブ」の監督いわく、この映像のテーマは「寛容」だそうです。あなたは、この映像のどんなところに「寛容」を感じましたか？ ・民族・宗教も、地形も気候も、主要産業も経済規模も、歩んできた歴史も異なるヨーロッパ諸国が政治的・経済的な統合を目指している。 一方で、トルコなどの新規加盟国の承認問題やギリシアに端を発する欧州経済危機など本当の統合に向けての課題は山積している。 EUの真の統合に向けてあなたが特に大事だと思うことを述べよ。
23	ひょうたん島問題から考える 多文化共生	【ねらい】 ・前時の映像「ヒジャブ」をふまえて、異文化との衝突について考える ・「ひょうたん島問題」のワークショップを通じて、多文化共生のあり方について考える 【展開】 1. 『「ヒジャブ」から考えるヨーロッパ統合』レポートふりかえり 2. 映像「となりに生きる外国人－多文化共生って何？－」視聴 3. 「ひょうたん島問題」基本ストーリー理解 4. 「ひょうたん教育の危機」 5. 「ひょうたんパワーの消滅」 6. 小レポート課題 ・ひょうたん教育の危機を救うための9つの施策をダイヤモンドランキングで優先順位をつけてみよう。 ① ひょうたん文化の理解をすすめ、ひょうたん人としての自覚を高める。 ② パラダイス人学校は認められない。 ③ 外国人はひょうたん学校から排除する。 ④ 外国人のための国際学校をつくる。 ⑤ ひょうたん学校とは別にパラダイス人学校をつくり、パラダイス人教育をすすめる。 ⑥ すべてのひょうたん学校に、外国人担当の補助教員を配属する。 ⑦ ひょうたん学校の教師になろうとするひょうたん人学生に対して、外国語・文化理解の単位を必修にする。 ⑧ カリキュラム外で、カチコチ文化やパラダイス文化を教える「国際理解教室」を設ける。 ⑨ ひょうたん学校のカリキュラムを改修し、外国文化学習コースを設置する。 ・「ひょうたんパワーの消滅」のストーリーは、現実のどのような問題を表現していると考えられるか。
24	ペットボトルの水から考える コモンズ	【ねらい】 ・共有財産(コモンズ)としての水についての理解を深める ・自然界の水から商品としてのペットボトルの水に変化することによって生じる諸問題について理解する ・受益者負担という考え方を理解する 【展開】 1. 「ひょうたん島問題から考える多文化共生」レポートふりかえり 2. 水とは 3. コモンズ(公共財) 4. 映像「ペットボトルの水」視聴 5. 小レポート課題 ・ペットボトルのリサイクルについて、受益者負担(直接的な消費者と企業が費用を負担して、税金を投入しない)の考え方をどう思うか？ ・地下水を採取している企業は、山梨県にミネラルウォーター税を払うべきだろうか？ ・ネスレ社とコカ・コーラ社の最も問題である点はどこか？
25	さぬきうどんから考える地域と世界	【ねらい】 ・香川県民のコモンズである「さぬきうどん」を育んだ地域の風土からブームに至るまでの経緯を理解する ・さぬきうどんをめぐる様々な影響について考える 【展開】 1. 「ペットボトルの水から考えるコモンズ」レポートふりかえり 2. さぬきうどん概説 ・さぬきうどんブームの変遷 ・さぬきうどんを支える地域の風土 3. 映像『さぬきうどんに迫る危機』視聴 4. 小レポート課題 ・「さぬきうどん」の成立からブームの到来をもたらした諸条件を説明せよ。 ・『さぬきうどんに迫る危機』のVTR中の上原さんが述べている「これは日本の問題やね」とはどのようなことか？ ・和食(日本料理)、郷土料理と呼ばれるものの原料も、その多くは海外産のものに依存していることが多い。この点についてどう考えるか？ ・B級グルメブームによって、地方の郷土料理・ソウルフードが注目されるようになった。このことから想起される地域へのメリットとデメリットを述べよ。
26	「私」と「世界」との つながりを考える	【ねらい】 ・映像「トレランス」と「命の度合い」をそれぞれ視聴し、作品のメッセージを考える ・映像「トレランス」と「命の度合い」に共通する、「自分の行動はすべて自分に返ってくる」ということに気付き、1年間の総括とする 【展開】 1. 「さぬきうどんから考える地域と世界」レポートふりかえり 2. 映像「トレランス」視聴 3. 映像「命の度合い」視聴 4. 授業アンケート

4．課題と展望

授業最終日には、１年間の授業を振り返ってもらいながらアンケートに答えてもらった。アンケートの集計結果を第１図に示した。考査などを除いた全21回の授業内容について、４段階（とてもよい、よい、よくない、無理）で評価してもらい、結果を棒グラフに示した。また、特に印象に残っている授業内容を２つだけ自由記述で挙げてもらい、グラフの右側に投票数を示した。そして、各授業の評価を「とてもよい：３点」、「よい：２点」、「よくない：１点」、「無理：０点」として点数化し、３点満点中の平均点を示し、それらの標準偏差と順位も併記している。

肯定評価が94.3%（513票）を占めており、全体を通して好評だった。ただ、これに甘んじることなく、さらに良い授業となるようにしていきたい。

印象に残った授業として上位に挙がったのが、「貿易ゲーム」9票、「発電方法３Ｄディベート」6票、「持続可能な社会ディスカッション」5票などである。これらの授業に共通しているのは、生徒が主体的に活動・体験する参加型学習である点である。以下に、各授業が印象に残った理由として述べたものをいくつか抜粋して挙げる。冒頭の番号は年間指導計画および授業概要のものである。

＜2. １枚の世界地図＞

・１番最初の授業であったが、とても考えさせられる内容であったし、地理Aの授業を受ける上での基礎になった。

＜3. 貿易ゲーム＞

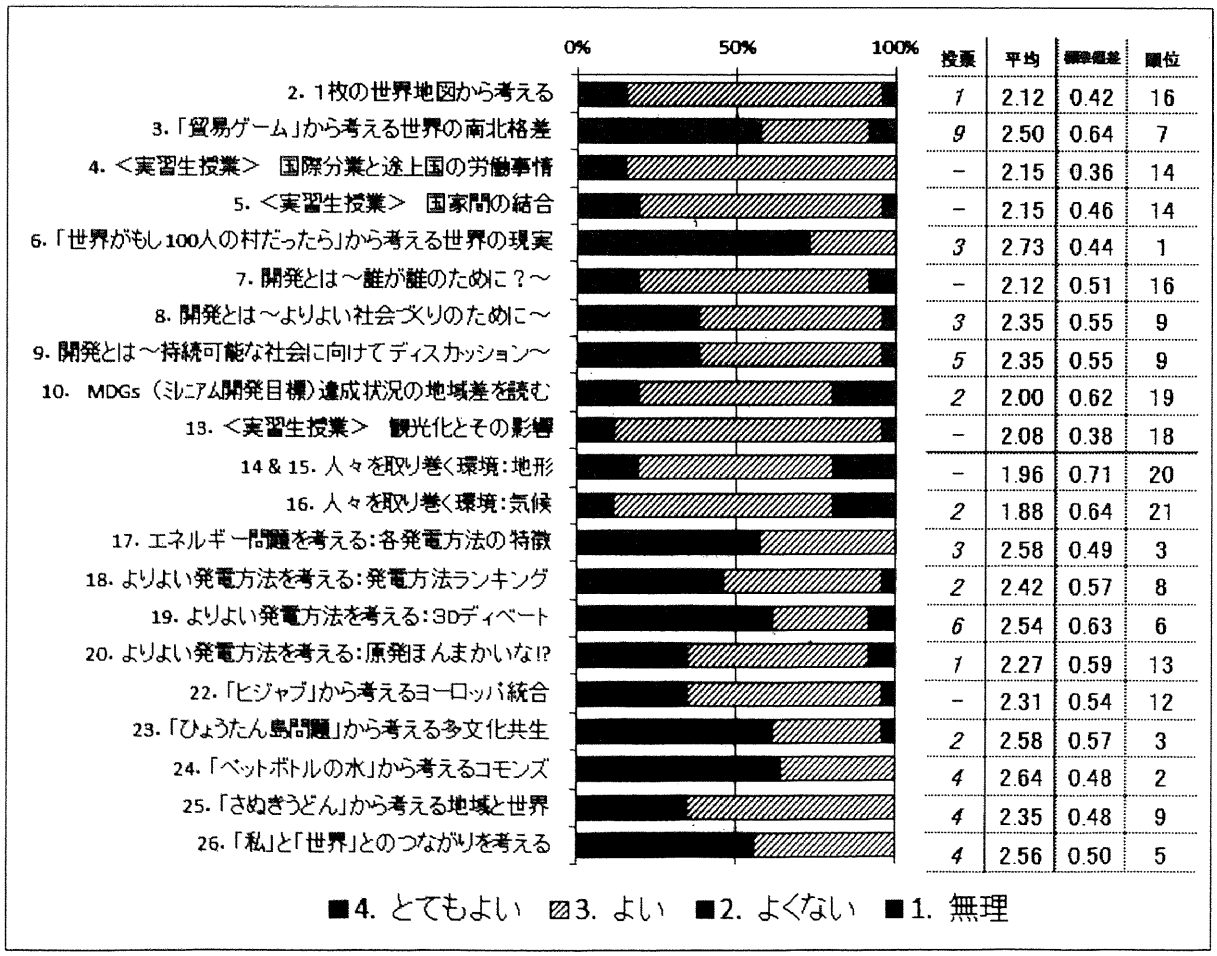
・貿易と聞くととっつきにくいものだと思っていたが、紙・鉛筆・はさみなどを使って実際に貿易を体験してみて、貿易はいろいろな国同士が互いに助け合っていかないといけないものだということがわかった。

・自分で疑似体験をすると、楽しみながら授業の内容がよくわかってとてもいいと思います。

・楽しかった。ゲームにしたことでよりわかりやすくなった。

＜6. 世界がもし100人の村だったら＞

・わかりやすくて記憶に残りやすかった。世界の現実を見て自分がいかに恵まれているか、できることは



第１図　地理Ａ授業アンケート（2012年１月28日実施）

やらなければならないと思い知らされた。
・大陸ごとに別れて比較した人口密度の違いは衝撃的だった。

<19. 発電方法3Dディベート>
・プリントで意見を共有するよりも生の意見交換のほうが良い。同じグループでも違う意見が出て、とても楽しめたし、学べたと思う。
・クラスの中だけでもそれぞれ違った考え方があったので、すごく面白かった。
・原発がすべてではないと知った。
・震災後に注目していた話題であった。すぐに脱原発できない理由や他の発電方法にもデメリットがあるということを知ることができた。

<23. ひょうたん島問題>
・ストーリーがあってわかりやすかった。ロールプレイで話し合ったのが理解しやすくて良かった。
・今の世界とつなげて考えられたから印象に残っている。

<24. ペットボトルの水>
・私たちが普段何気なく利用しているものにこんな問題が含まれていて驚きだった。
・「そうなの？」と思うことがたくさんあっておもしろかった。

<26. 私と世界>
・映像から様々なことが想像でき、たくさんの意見が出て面白い。これでディベートがしたかった。来年の授業ではぜひやってあげてほしい。
・他の立場の人の意見に耳を傾けることができた。

シミュレーションやロールプレイなどによって教科書の文章だけではつかみにくい具体的な状況を、自分自身で追体験することで一層理解が深まり、印象に残るものとなったのであろう。また、ディスカッションやディベートなど自分の意見を表明したり、他者の意見を聞いたりしたことがよかったという意見が多く見られ、授業後も放課後や休み時間にディスカッションの続きを行っている者もいた。「国内実施計画」で求めていた「参加する態度、自発的な行動」へのきっかけになりえたのかもしれない。昨今のエネルギー問題やグローバルイシューについては、合意形成を得ることが難しく、なかなか結論にたどり着くことはないであろうが、こうした議論を重ねていく中で、お互いを理解したり、膠着した議論の突破口が見出せたりするはずである。

一方で気になった点は、1つはコメント中に筆者で下線を引いた「楽しかった」「面白かった」の部分である。もちろん学習をするうえで、楽しい・面白いという感情はとても大切であるが、生徒の多くがそれだけに終始してしまっている感があるのは否めない。「楽しかった」「面白かった」だけで終わらないように、「理解」から「考察」または「行動」まで結びつけるような配慮が必要であろう。特に新科目「Global Studies」は、3年間の国際教育の集大成としての位置づけもあるため、国際貢献や社会貢献につながるような、足元からの行動化を促すような単元に昇華させていきたい。

もう1つ気になる点は、最も地理らしい単元である「地形」と「気候」の評価が芳しくないことである。現に定期考査の出来も著しく振るわなかった。これらの単元は通常の地理の授業においても苦手とする生徒が多く、丁寧に説明していく必要がある。そのためどうしても講義の割合が多くなってしまい、覚えるべき用語や理屈が急激に増えて、他の参加型授業の単元に比べると華やかさも面白さが感じられないのかもしれない。限られた時間しかこの単元に割り当てることができないため、急ぎ足で指導してしまったこともあり、内容理解が不十分であったのかもしれない。ただ、自然環境のシステムを理解するためには避けて通れない単元であるので、次年度以降の展開の仕方にさらに工夫を施していかなければならない。新科目「Global Studies」に移行した際に、自然地理の単元を取り入れるべきかどうかはまだ検討の余地があるが、取り扱い方次第では、体系的な理解・思考に基づいた世界認識を形成することにつながるであろう。より一層の教材研究・指導の工夫が必要である。

なお、今年度の実践にあたって、使用を断念した教材、キャンペーン、コンクールなどがいくつもある。

たとえば、
・「世界一大きな授業」世界中の子どもに教育をキャンペーン[5]
・「STAND UP TAKE ACTION」[6]
・「守ろう！地球のたからもの～豊かな世界遺産編」[7]
・各種作文コンクール

これらについては、次年度以降の実践の中で随時効果的に活用して、事象を理解するのみにとどまらせない教育活動を進めて生きたい。

<参考文献>

・石森広美（2010）：高校のグローバル教育におけるアセスメント指標の開発的研究、東北大学大学院教育学研究科研究年報 59(1), 357-378.

・石森広美（2011）：高等学校におけるグローバル教育のアセスメント指標と実践枠組みに関する研究、東北大学大学院教育学研究科研究年報 59(2), 193-219.
・泉 貴久（2009）：イギリスの中等教育用地理テキストにみるESDの概念--日本の地理教育におけるESD実施へ向けての課題と展望、専修人文論集（84), 353-374.
・泉 貴久（2011）：地理教育における諸課題学習のあり方--イギリスの中等教育用地理テキスト Earthworks Plusを手がかりにして，専修人文論集 (88), 115-147
・「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議（2006）：『我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画』，24p.
・中山修一・和田文雄・湯浅清治（2011）：「持続可能な社会と地理教育実践」，古今書院, 262p.

(1) 詳細は工藤泰三ほか（2011）：「平成22年度国際教育推進委員会活動報告」、筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要第48集を参照のこと。

(2) ESDとはEducation for Sustainable Developmentの略称で、長らくは「持続可能な開発のための教育」と日本語訳されていたが、2008年の「教育進行基本計画」以降は「持続発展教育」という呼称で統一されることとなった。

(3)「社会・文化領域」において、①人権、②平和と人間の安全保障、③男女の機会均等、④文化の多様性・異文化理解、⑤保健・衛星、⑥HIV／エイズ、⑦統治、「環境領域」においては、⑧自然資源（水、エネルギー、農業、生物多様性）、⑨気候変動、⑩農村開発、⑪持続可能な都市化、⑫防災、「経済領域」においては、⑬貧困削減、⑭企業の社会的責任（CSR)、⑮市場経済である。

(4) 国内実施計画ではESDで育む技能・価値観について「ＥＳＤにおいては、問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方を重視した体系的な思考力（システムズ シンキング（systems thinking））を育むこと、批判力を重視した代替案の思考力（クリティカルシンキング（critical thinking））を育むこと、データや情報を分析する能力、コミュニケーション能力、リーダーシップの向上を重視することが大切です。また、人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重といった持続可能な開発に関する価値観を培うことも重要です」と述べている。

(5) 教育協力NGOネットワークhttp://jnne.org/gce2012/

(6) 動く→動かすhttp://www.ugokuugokasu.jp/

(7) 日本ユネスコ協会連盟http://www.unesco-esd.jp/